

東京桑野会会報

●2020年4月1日発行●発行・編集人 古川清●発行所 東京桑野会事務局 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-9-5 東園ビル7階 新神田法律事務所内



No.42

安積歴史博物館（旧本館）
画：母校美術科 榎村俊智（98期）

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

ご挨拶

東京桑野会会長
古川 清



世界は依然として危機状態にある。新年早々米大統領の命令によりイランの革命防衛隊の司令官がイラクの首都バグダッドで（これもおかしい）ドローンにより暗殺され、其の後イラン軍のケアレス・ミステークによりウクライナの旅客機がテヘラン空港離陸直後ミサイルで撃墜され全員が死亡した。

第二次世界大戦後世界の外交の基本路線であった国際協調と民主主義は大きく揺らいでいる。「自国第一主義」のエゴイスト・タイプの政治指導者があちこち

に輩出、核や新兵器開発をちらつかせて要求を通そうとしている。

第4期卒業の朝河貫一・元イエール大学教授が生きていたら「世界の禍機」を書いて警告を發したに違いない。なにしろ世界には1万4千発余の核弾頭が存在すると言うのだから、大規模戦争が起こったら、文明の崩壊と人類滅亡の可能性を考慮せざるを得なくなるであろう。真っ平ごめんである。

東京桑野会2020（令和2）年度定期総会・懇親会のお知らせ

東京桑野会では下記の要領にて例年通り定期総会・懇親会を実施します。会員の皆様は、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

- (1) 日 時：令和2年6月5日（金曜日） 16：00 受付開始
- (2) 場 所：『ホテル椿山荘東京』 [東京都文京区関口2-10-8]
JR目白駅、または東京メトロ有楽町線江戸川橋駅 下車
電話 03-3943-1111
椿山荘への交通・地図は、こちらから
(<https://hotel-chinzanso-tokyo.jp/access/>)。
- (3) 会 費：懇親会費 ¥8,000 東京桑野会年会費 ¥2,000
(合計 ¥10,000)
122期以降の若手会員は、年会費・懇親会費合計 ¥6,000
学生につきましては、年会費・懇親会費合計 ¥3,000
- (4) タイムスケジュール
16:00（午後4時00分）～ 受付開始
17:00（午後5時00分）～ 令和2年度東京桑野会定期総会
17:30（午後5時30分）～ 合唱演奏会
演者：安積フィメールコール東京
(福島県立安積黎明(旧・安積女子)高校卒業生合唱団)
18:00（午後6時00分）～ 懇親会

東京桑野会は会員皆様の年度会費によって運営されています。

総会当日にご出席できない会員の皆様には、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込みのご協力をお願い申し上げます。

◇準備の都合もごございますので、出欠の返事は同封の葉書で、5月28日（木）までにご返送くださいますようお願い申し上げます。事務処理の都合上葉書には必ず住所、氏名、期を記入してください。葉書にはアンケートもごございますので、ご協力ください。

◇また、連絡もれがあるかと思われるので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、2019年6月7日（金）に、令和元年度定期総会・懇親会として開催されました。郡山からのご来賓として母校安積高校の小島稔校長、校内幹事の染谷仲宣氏（105期）安積桑野会会長の安孫子健一氏（80期）、安積歴史博物館の橋本文典氏（84期）の4名をお迎えしました。また、懇親会に先立ち、東京工業大学名誉教授で日本犯罪学会前理事長・医学博士の影山任佐氏（79期）による『精神医学と犯罪学の狭間で一人間学を求めて』と題する講演会を実施しました。

懇親会会場に場所を変え、高松豊副会長（74期）の挨拶をかわきりに、ご来賓のご挨拶を賜ったのち出席者を代表して菅野壽夫氏（63期）による乾杯で懇親会が始まりました。総会・懇親会への参加者数は、来賓4名、学生会員6名、一般会員117名の総勢127名となりました。

母校便り

☆母校は今年（2020年、令和2年）、創立136周年を迎えます。その母校の現在の様子を、母校からの情報をもとに紹介いたします。

☆母校を語るときに、「歴史と伝統」という言葉がよく出てきます。代表的な「歴史と伝統」が、学校祭（現在は「紫旗祭」と呼ばれます）における仮装行列ではないでしょうか。2019年の紫旗祭でも、テーマ「集え 紫旗の下 いざ拓かん 新たな歴史」のもと、新しい仮装の歴史を作ってくれまし

た。

☆歴史と伝統の体育祭も大変に盛り上がりました。体育祭の結果を見て驚きました。総合優勝が3年3組、総合準優勝が3年6組、総合3位が3年2組と2年8組。3年生が1～3位を占めるというようなことは、歴史上あったことでしょうか!? 受験学年でもある3年生が!! この学年はトテツモナイ期ではなからうか。

☆母校の後輩たちは、部活動でも大活躍です。文化部では、合唱部、写真部、生物部、将棋部、囲碁同好会が全国大会（2019さが総文）へ出場しました。運動部では、女子剣道部個人、男子硬式テニス部が全国インターハイ（南部

九州総体2019）へ出場しました。スゴイ!

☆勉強でも、新たな歴史が。2度目のスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）に指定され、あらたな取り組みが始まりました。出でよ、未来の科学者。

☆福島県の高校入試制度が、2020年4月高校入学生から変わります。各学校の特色を出して、そこで学びたい生徒を選抜できるようにする・・・。母校は人気が高く、入試倍率も高めのです（1.28倍との新聞報道あり）。それを乗り越えて、安積へ入学する新安高生へ、この東京桑野会報が届きますように。

☆大学受験に関する動きでも、2019年度は状況を少しだけ紹介いたします。センター試験は2019年度（2020年1月）の実施を最後に廃止されます（2020年度から大学入学共通テスト：共通テストがスタート）。そうすると、2019年度中に大学進学を決めたい、と多くの受験生が思います。筆者の時代、共通一次試験が次年度から導入されるからなんとか今年度中にうかりたい、と願ったことを思い出しました。受験生の皆さん、縁あって首都圏へ出てくるようになったら、是非東京桑野会に遊びに来てください。

会員消息

○逝去された方々のご冥福をお祈りいたします。（ ）は期、逝去された日。敬称略。

遠藤 博(48期) (平成19年)
古川 勝夫(53期) (平成30年11月23日)
鈴木 芳保(59-60期) (平成31年4月1日)
佐藤 哲(61期) (平成29年)
高橋 育造(61期) (平成31年1月9日)
堀田 喜昭(61期) (平成30年11月9日)
服部 偉介(63期) (平成30年4月24日)
鹿野 義信(64期) (平成22年4月)
無津呂雄一郎(64期) (平成30年4月3日)
加藤 英夫(65期) (平成29年9月14日)

佐藤 章(65期) (平成30年4月30日)
村上 喜春(66期) (平成29年12月30日)
横尾 稔(66期) (令和1年11月16日)
中島 純(67期) (平成31年3月6日)
長谷川雅行(67期) (平成31年1月16日)
大澤 久夫(68期) (平成31年3月18日)
菊池 博信(70期) (平成30年7月25日)
鈴木 明(70期) (平成30年5月10日)
大和田允彦(71期) (平成30年9月28日)
大嶋 幸雄(71期) (平成29年10月31日)
佐藤 和夫(71期) (平成29年5月23日)
鈴木 重洋(71期) (平成30年4月21日)
木伏 一彦(78期)
近内 勇雄(79期) (平成30年8月27日)
檜村 弘幸(84期) (平成31年3月4日)
浮津 真人(84期) (平成26年7月16日)
佐久間善彦(84期) (平成30年7月)



令和を迎えて

安積桑野会会長
安孫子健一(80期)

東京桑野会の皆様には、お元気で過ごしのことと思います。昨年度も安積桑野会の活動にご協力とご支援をいただき、心から御礼申し上げます。創立135周年を記念して発刊しました同窓会名簿は、多くの方々のご協力のお陰で、無事会員の皆様にお届けすることができました。お世話になりました。

昨年5月、元号は平成から令和へと移行しました。大災害が相次いだ「平

成」の時代を脱却し、世の中が穏やかで、平和が永遠に続くことを願って採用された「令和」でした。しかし思いは届かず、初年度から異常気象が多発しています。

昨年10月12日、伊豆半島に上陸した台風19号は関東・東北を縦断し、東日本各地に大雨を降らせ、河川の氾濫や土砂崩れにより甚大な被害を与えました。

福島県内に於ても、中通りでは阿武隈川沿いの河川が、そして浜通りでは太平洋へ注ぐ各河川が、堤防決壊や越水により広範囲に洪水被害をもたらしました。

郡山市内も大変な被害を受けました。殊に阿武隈川・谷田川・逢瀬川の氾濫による影響は大きく、昭和61年8月5日発生した台風10号による8.5

水害を超える大災害となりました。市内田村地区にある郡山中央工業団地は全域が水没し、大手電気メーカー日立製作所が工場撤退移転を決めたり、未だ再開できない工場・事業所があります。地元経済への影響は計り知れません。また赤木・小泉・永盛の3小学校は、校舎などが浸水被害を受け、市内の10数校に分散登校して授業を受けていましたが、2月中旬には最後となった永盛小の1・2年生が自校に戻り、漸く通常の学校生活を再開しました。幸い母校は、校舎や安積歴史博物館の建物に被害は生じませんでした。しかし、福島交通のバス車輛が水没などしたため、バス通学生は登下校に不便を来す日々が続きました。また、同窓会会員の中にも自宅や事業所が水没する被害を受けた方がおられますが、

ひととき、日々の喧噪を離れて。

そこには、さながら森のような庭が広がっています。
東京のまん中にいるとは思えない、静寂につつまれたやさしい時間を、心ゆくまで味わってください。
At Hotel Chinzanso Tokyo, we are honored to share this heritage with you through our services and accommodations and especially our legendary garden. Discover the essence of Japanese hospitality.

ホテル椿山荘東京
〒112-8680 東京都文京区関口2-10-8
10-8, Sckiguchi 2-chome, Bunkyo-ku, Tokyo, 112-8680, JAPAN
TEL.03-3943-1111

世界をもてなす、日本がある。



HOTEL 椿山荘 TOKYO
CHINZANSO

皆さん元気に活動を再開されていますのでご安心ください。東京桑野会会員の皆様からは、お見舞いや励ましのお言葉を多くいただき、ありがとうございます。

本年、母校は創立136周年を迎えますが、校内環境は大きく変わりました。福島県内公立高校の再編成計画の中で、安積高校も学級減の措置を受けることになりました。136期新入生から、1学年7学級280名へと生徒数が減少しました。2年後には全学年で

21学級840名と、昨年度迄より120名減ることになります。

大震災前の県人口は205万人でしたが、現在は185万人に減少し、20年後の2040年には145万人になると言われています。人口減少に伴う少子化の流れは致し方ないことですが、母校の規模縮小は寂しい思いがします。近い将来には1学年6学級にする計画と聞きます。最大生徒数時代に比べると生徒数は半数以下になる訳ですが、団体競技の運動部などのクラブ活動が危惧さ

れます。生徒達が実りある高校生活を送れるよう、これからも皆様のご協力を得ながら、応援して参りたいと思います。そして、今年も多くの卒業生が首都圏の大学へ進学しました。東京桑野会の皆様にはこれまでと同様、変わらぬご支援を後輩達に賜りますよう、よろしく願いいたします。

最後になりましたが、東京桑野会の益々のご発展と、会員の皆様のご活躍をお祈りいたします。

震災・ 原発事故 再考



安積高等学校校長
小島 稔

平成31(2019)年4月1日、安積高等学校第45代校長として、着任いたしました。当日は、新元号が公表される日であり、校長室のテレビで「令和」の文字を目にしてから、早1年が過ぎてしまいました。

東京桑野会の皆様には、母校に対して多大なる御支援をいただき感謝申し上げます。昨年6月7日(金)に開催された東京桑野会総会並びに懇親会にお招きいただき、同窓生の皆様と懇談するなかで、母校への熱い思いを感じ取ることができました。

総会の折にも自己紹介させていただきましたが、ここに経歴とともに震災・原発事故を話題に所感を述べることにします。

私は、昭和35(1960)年、相馬市生まれの59歳(今年5月で60歳)です。

自らの三十数年の教員生活を振り返ると、様々なできごとがありました。やはり震災と原発事故が教員人生の最後の10年間の方向性を決定づけたのは、間違いありません。平成23年3月の震災発生当時、私は、本宮高校に教頭として勤務しておりました。

学校自体は、被害はありませんでしたが、ほどなく双葉郡からの被災者を受け入れる避難所を運営することになりました。4月上旬までの20日あまりの間に、教職員、自治体、地域住民と協力して最大250人ほどの被災者のお世話をさせていただきました。このときは、教員であるまえに、県職員としての公務員の在り方を認識させられました。

平成23年8月から、県教育庁高校教育課の管理主事として、県全体の教員の人事管理、人事配置の業務に従事しましたが、ここでも被災県である福島の教育の在り方について、行政職の立場から県全体を俯瞰し、各校の課題解決のための人事配置の在り方について悩む日々でした。

平成26年4月、双葉高校に校長として赴任しました。ご存じのとおり、双葉高校は、福島第一原子力発電所から直線距離にして約10km。原発事故直後は、県内各地に避難した生徒の学習環境を維持するために県北、県中、会津、いわき、相双の各地域にサテライト校舎を設置していました。ところが、学校として生徒の一体感を醸成する必要性から、平成24年4月、県内各地のサテライト校舎を集約するため、いわき明星大学(現・医療創成大学)の校舎を借用して、学校を運営することとなりました。ところが、平成25年12月、県教育委員会は、双葉高校を含めた県立高校5校(双葉、浪江、浪江津島(分校)、富岡、双葉翔陽)を「3年後に休校する」と決定しまし

た。生徒数の激減により、学校運営が困難な状況での決定でした。そうしたタイミングで赴任した私の使命は、在校生、保護者、同窓生の思いに配慮しながら、休校までの3年間の学校経営の舵を取り、休校措置をソフトランディングさせるということでした。

双葉高校は、震災発生当時約470人の生徒が在籍していましたが、私が赴任した平成26年4月時点での在籍生徒数は、3学年の生徒を合わせてもわずか45人でした。新入生14人は、休校になることを理解したうえで入学してきたのですが、自分たちが最後の生徒であって、後輩が入学してこないという現実をわがこととして直視できていたのかは疑問でした。同窓会総会では、「休校に至った経緯について校長から説明を聞きたい!」と大声で質問され、私が説明を終えると、「その間、同窓会は何をしていたんだ!」と、同窓会長が罵声を浴びせられるということもありました。しかしながら、原発直下の双葉郡の現状に鑑み、学習環境の整備という課題に対しては、双葉郡8町村の教育長連絡協議会が提案した、「新たな中高一貫校の設置」という要望が、県立高校5校を休校にしてもなお、現実的な解決策でした。平成27年4月、広野町に「ふたば未来学園」の高校が一足先に開校し、平成31年4月には併設中学校が開校しました。こうして、平成29年3月末に、双葉郡の5校は、ひっそりと休校しました。

双葉高校は、夏の甲子園に3回の出

場を誇り、旧制中学創立以来93年の歴史と伝統に裏打ちされた教育活動に、いったん幕を引くことになりました。

私はいまでも、双葉高校同窓会の東京支部である「東京梅檀会」の総会にお招きいただいております。母校の校長としての3年間に加え、休校後の2年間も続けて参加し、福島県の高校教育の現状と課題をお話しさせていただくとともに、双葉高校の現況もお伝えしてきました。双葉町にある双葉高校の本校舎2階音楽室に、双葉町を見つめるようにスクールカラーである緑色の双葉ダルマを設置してきました。胴の部分には、「復活双高」の文字が記されています。休校となつてはいますが、今年で創立97年目を迎えます。同窓会の当面の目標は、100周年記念事業を成功させることです。

平成29年4月に郡山高校に異動した際には、東日本大震災、特に原発事故による双葉郡の状況に関心が低いことを危惧しておりました。着任式において、原発事故や避難せざるを得なかった高校生のお話をしましたが、反応はいまひとつでした。おそらく、郡山高校の生徒たちのなかにも、双葉郡から避難している生徒がいたはずですが、それを口にできないのは、「風評」による誹謗中傷、いじめを恐れるからだということも、容易に想像がつかしました。その後、生徒全体の前では、原発のお話を控えることにしました。

平成30年4月からの福島県教育庁高校教育課長を経て、平成31年4月に安積高校に着任しても、双葉郡の現状と課題について、全校生徒の前で話すことはありません。一方で、昨年4月から、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の2度目の指定を受け、探究活動とも関連付けながら、原発事故、放射線防護をテーマにして研究発表する生徒たちの姿が見られます。前回のSSH指定終了から12年の空白期間がありますが、震災・原発事故・少子化・SDGsなど、時代の変化に対応した課題解決に向けた探究活動と教育プログラムを着実に推進しております。

一例を挙げれば、8月1日から6日

まで、安積高校が主催した「国際高校生放射線防護ワークショップ」です。県内からは安積高校、福島高校、ふたば未来学園高校、県外からは東京都立戸山高校、フランスの私立ノートルダム高校など5校から計28名が参加しました。県環境創造センター、ふたば未来学園高校、東京電力廃炉資料館、富岡町学びの杜（第4回福島第一廃炉国際フォーラムに参加）、中間貯蔵施設、福島第二原発の見学などをとおして学んだことを、最終日に衆議院議員会館国際ホールでプレゼンテーションしました。私もプレゼンテーションと修了式に参加しましたが、高校生の新鮮な視点での発表に感心させられたとともに、社会科教員として血が騒いだというか、大いに刺激を受け、まだまだ自分もやらなければならないことがあると実感させられました。

これだけの企画ですので、運営協力をいただいたNPO法人ドリームサポート福島の皆様をはじめ、特別協賛をいただいたサッポロホールディングス、東芝国際交流事業団、認定NPO福島100年構想委員会の皆様には、心より感謝申し上げます。

また、春休み中の3月20日から28日までの予定で、安積高校の教員2名が本校2名と福島高校2名の生徒を引率して、フランス放射線防護評価センター主催による高校生国際交流会に参加します。これも、ドリームサポート福島及び福島100年構想委員会の皆様の御協力、御支援により実施に至りました。

このように、多くの方々の人的支援及び経済的支援なくして、安積高校や県内の公立高校における充実した教育活動、学習活動は実践できません。東京桑野会の皆様をはじめ、福島県内、郡山市内の同窓生の皆様におかれましては、現役の後輩諸君の学習活動に対して、引き続き物心両面からの御支援を賜りますようお願い申し上げます。

高山樗牛、新城新蔵、朝河貫一ら、時代の開拓者によって受け継がれた「安積の精神」を継承し、現代社会の開拓者となるべく、高い志を持って勇躍、海外研修に参加しようとする現役生の学習機会を次年度以降も発展・拡

大したいと考えておりますので、皆様の御理解御協力をお願い申し上げます。

福島県では、ここ数年来、「地域とともにある学校」という教育目標を掲げています。通学区域が広範囲にわたることから地域との関係が希薄であった高校においても、地域課題の解決に向けた探究活動やアクティブラーニングの実践とを関連付けた活動を推進しています。SSH事業、探究活動においても、郡山市から御協力を御支援をいただいております。

教育における「不易と流行」ということは、よく言われることですが、安積高校においても、135年の歴史と伝統に裏打ちされた「安積の精神」は変わることなく次代に継承され、一方で、学習活動については、時代のニーズに応じて変化し続けなければなりません。

四書五経のひとつ『易経』にも、「易は、窮すれば則ち変じ、変ずれば則ち通ず。通ずれば則ち久し。」とあります。東日本大震災という未曾有の大災害の後にも、日本の各地で地震、豪雨による災害が続き、昨年台風19号による豪雨災害では、郡山・本宮をはじめ、県内各地でも大きな被害が発生しました。また、この暖冬による雪不足が春からの水不足を予感させます。このように不安感漂う時代にあっても、「安高生」諸君には、本校SSH事業のキーワードである「レジリエンス」を身につけ、前途多難な時代をたくましく生き抜いていくことを期待します。

ここまで、個人的な体験に基づく稚拙な文章で恐縮いたしますが、私の教員生活も残すところ1年という節目にあたることから、雑感をとりとめもなく述べさせていただきました。寛容の心を持ってお許しいただきたく存じます。

結びに、東京桑野会の皆様におかれましては、郡山に帰省された際には、母校安積高校の現状と課題をつぶさにご覧いただき、御指導御助言を賜れば幸いです。校長室にも御遠慮なくお越しください。

安積高校の校長室の扉は、すべての同窓生に開かれております。

これからの医療産業の進化を見つめて

藤田 勝久 (82期)

安積の集まりを医療の中で見つめずと母校からたくさんの医療に携わってきた諸先輩や今も医療現場、研究職として医療に貢献してきている姿に敬意を表したいと思います。外資製薬メーカー勤務から今の医薬分業が進展し、薬局経営を通じてたくさんの同窓生にもお会いしながら、40数年医薬品市場に携わってきました。

世界の医薬品市場は巨大で2018年120兆円と言われ、日本は8.5兆円を超え、米国の53兆円、中国10兆円に次ぐ、世界第3位市場です。Top2の薬効製品は、抗腫瘍剤13兆円、糖尿病薬が10兆円の売上を占め、この2大疾患を克服しなければ、人生100年と言われ、達成することはありえません。日本の画期的と評価された開発医薬品は、世界第3位を占める売上のノーベル賞の本庶先生のオプジーボ、1991年高脂血症薬メバロチン、そして2007年認知症薬アリセプトです。日本の新薬は海外メーカからの導入製品で占められている現状です。これを打開すべく国内トップの武田薬品が外資を6.8兆円で買収し、開発力ある海外に資本投下し大きな舵を切りました。国内のメーカは開発承認を受ければ、長年公定価格の薬価に守られ、競争から守られます。また特許が切れてもブランドに頼り後発品に対抗し、販

売継続できます。しかし、今ピカ新と言われる新薬期待はできなく、国内メーカ同志の存続の合併効果は薄く、人員削減に入ってきております。そのような日本市場で、唯一外資の魅力は、医薬開発力ではなく、超高齢者増大による医薬品市場と各社の医薬品流通網です。大手流通業に匹敵する守られた医薬品巨大流通網です。医薬品の流通費の低減化は、規制緩和との争いで、外資の低コスト流通網の医薬市場参入は脅威です。一方、医療全体で見ますと高度医療機器開発、再生医療に代表される医療技術、医療施設は世界の先端技術を争ってきており、海外から、外国人が自費で検診、診察、投薬を受ける患者が増えてきており、あらためて日本の医療の評価と競争力はあると思います。

薬局業界において薬局薬剤師が医療で果たす役割のあり方を問われているとき、将来の医療を見据え「患者のための薬局ビジョン」2016年10月に厚労省が公表され、業界で深く浸透してきております。

この策定に当たり、厚労省で母校の卒業生がここでも深く関わってきています。これからの薬局が国民の健康サポート機能を持ち、病気の予防、受診勧奨、医薬品供給、相談体制などより地域に密着連携してゆくあり方を指し示しております。

また、特区でオンライン診療、服薬指導が在宅でテレビ電話診察を受け、服薬指導後、お薬は宅配で受取れ、いずれ全国に適用されてくると思えます。



画：榎村俊智 (98期)

またロボット技術の進化により、手の感触が伝わるロボットアームが遠隔で手術が可能な時代が見え、AI技術により診断、治療計画、服薬指導などIT進化は急速に導入されてくると思われます。

薬局も将来、究極は、お薬受渡口という薬局という箱物はなくなるかもしれない。

電子処方箋が飛び、かかりつけ医、かかりつけ薬剤師が管理し最適な効率よい医療が浸透してくると思います。

日本において国民皆保険という負担の少ない制度を守り恩恵を受けつぎながら、海外との競争力の低下をきたさない様、また医療を国の大きな巨大産業として成長させてゆく投資と人財が求められるところでもあります。

これからの医療をリードしてゆく後輩、今まさに携わっている母校の卒業生が日本の医療ここにありと声高く上げてくることを期待したいと思います。

恩送り ～不思議な縁に導かれ～

吉田 雅彦 (101期)

高校時代の私は、後に母校の校長になられた久保田範夫先生から国語の授業を受けていた。

その頃の私は、成績が優秀だとか部活動で目覚ましい活躍をしたとかいうこともなく、「文武両道」とは少し離れたところにいたのだが、不思議な巡り合わせから、久保田先生の教員人生最後の年に、母校のPTA会長のお役を仰せつかることになった。このことは偏に、見事130期生として安積に入学してくれた娘の力に拠るところが大きいのである。

さて、その年は安積高校と安積黎明高校の野球定期戦(安積戦)が10回目を迎えた節目(平成28年)でもあった。両校野球部の雌雄決する戦いもさることながら、10回目の記念すべき定期戦のもう一つの見どころは、久保田範夫校長(安積)と源後正能校長(安積黎明)の88期同期対決。

その定期戦に花を添えるべく、安積黎明高校のPTA役員との合作で数量限定のポスターを作成し、そのお披露目も兼ねて母校の様子を伝えるべく東京桑野会総会の懇親会に参加させていただいた。ここから、東京桑野会とのご縁をいただいたのである。

話は横に逸れるが、家内の妹の連れ合い（つまり義弟）は、安積の101期で私とは同級生である。当時の安積は一学年450名超の大所帯であったため、お互い知るところではなかったが、共通の友人知人がいるために家内の実家でも話題に事欠かなかったので、義母は私たちの扱いはとても楽なようである。

閑話休題、卒業する130期生に「知識に経験を加えることで知恵が生まれる」というのはなむけの言葉を送った。安積で学んだ価値は、安積を卒業してからいよいよ輝くもの、つまり「真の安高生」とは、卒業後のそれぞれを形容する言葉なのだと思う。

東京桑野会に参加をさせていただき、先輩方と交流をさせていただいた私は、この場は様々な経験値の坩堝であると感じた。男女共学になり、

ますます可能性の溢れる若者が集うようになった安積高校。その若者たちが、「真の安高生」になるために「安積」というキーワード一つで、多くの先輩方の経験値と結びつき、そして学ぶことができる東京桑野会。その存在を「未来の真の安高生」に微力ながら伝えていくことが、安積とご縁をいただき多くの先輩諸氏のご恩を受けてきた私ができる恩送りなのだと思う。

(ファイナンシャル・プランナー)

恩師の恵み

今川 直人 (75期)

〈友〉私が卒業したとき生まれた人が還暦を迎える昔のことなので忘れたこともあるでしょうが、いくつかのことは覚えていてふと思い出すことがあります。

よく思い出すのが文化祭に展示する家具を製作した時のことです。浮かぶのは私を誘い入れたリーダーが脚のついた台に固定した角材にカンナをかけているシーンです。放課後遅く

まで何日もかかりました。出来栄えもなかなかで（当社比）、二、三人の部員の工作部が面目を施しました。

一年の時の高柴山への遠足は今もって不思議です。工作部のリーダーと草の上で昼食をとっている写真が一枚あるので確かに現実なのですが、写真が拭い去ったように記憶がありません。遠足と言えば関西への修学旅行はその後訪れるたびに「ここには来たな」と思い出します。

体育の時間では走り幅跳び、1500m競走で頑張りました。3年生のときの100m走は思い出すたびに笑いがこみ上げてきます。並走した相手が親友で、スタート時の珍事から二人とも笑いをこらえて走り、ひどいタイムで同時にゴールしました。

3年の時の生徒会活動では、別人のように真剣な会長の顔以外にも思いつきませんが、何かあるたびに焦りを感じながら連日暗くなるまで残っていました。思い出の動画では昔のままの友達が躍動しています。

〈恩師〉先生が引き戸を開けて入ってくると生徒の背筋がピシッと伸びたものです。先生方は科目やクラスを超

不法電波は
やめましょう!

ATIS(自動識別装置)を
必ず取り付けましょう!

技術と奉仕の無線機器部門
ソフト開発と奉仕のコンピュータ機器部門
ニーズに対応、奉仕の電話機器部門
株式会社富士通ゼネラル通信特機特約店
富士通テン株式会社特約店

株式会社 山口電機

www.yamaguchi-denki.co.jp

本社 宇都宮市宮の内2丁目184番地18
水戸支店 水戸市中河内町67番地1
さいたま支店 さいたま市三橋1丁目815番地1
東京支店 江戸川区春江町2丁目10番3号
千葉支店 千葉市稲毛区六方町215番地22
高崎支店 高崎市倉賀野町5319番地1
会津若松支店 会津若松市一箕町八幡38番地11号
横浜支店 横浜市青葉区元石川町3719番地8

TEL(028) 655-1600(代表)・FAX(028) 653-7817
TEL(029) 227-2205(代表)・FAX(029) 227-2237
TEL(048) 663-4000(代表)・FAX(048) 663-4274
TEL(03) 3698-1600(代表)・FAX(03) 3698-1699
TEL(043) 423-3000(代表)・FAX(043) 423-3503
TEL(027) 346-4000(代表)・FAX(027) 346-4004
TEL(0242) 23-1700(代表)・FAX(0242) 23-1701
TEL(045) 921-5100(代表)・FAX(045) 921-5416

代表取締役 山口雄機 (74期)

えて絶えず我々を激励し、勉強の仕方なども教えてくださいました。私の場合、『勉強の仕方』に後々まで支えられることになりました。

『英語の実力は辞書を引いた回数に比例する』、『一つの単語を70回引くと覚える』、『予習は復習の3倍効果がある』(以上化学の先生)、『教科書をマスターして入れない大学はない』、『ネーティブは一秒に5シラブル。音読が大切』(英語の先生)、『3年で理科社会を勉強するために、2年までに時間のかかる英数国を』、『考えるのは自分の国の言葉。国語の勉強は大事』(生物の先生)

私は教育や研修に係る仕事が多い農業団体で働きました。団体が設立した学校での勤務、外国(ベトナム)の農協の事業・経営指導、退職後の日本語指導など教育・研修の仕事が20年以上になりました。先生の教えは一生の財産ですが、『勉強の仕方』が具体的に役立ちました。

ベトナムではかなり長期間技能実習生の教育に従事しました。漢字圏には漢字起源の言葉が多いので漢字は日本語の勉強の効率を上げます。しかし日本の受け入れ企業の要求水準、半

年未満の短期研修、教師の過半が実習帰国者であること等から、漢字教育や辞書の活用は全く低調です。経営者に理解を求めて教師に漢字の教え方を指導し、全受講生に辞書を配布しました。

『教科書(重視)』は難物でした。試験問題は教科書にたくさんある練習問題から選ばず他所からその都度探してきます。教師の沾券にかかわると考えるのか、大学までそうになっています。前期生との比較も進度把握も困難です。何よりもどこから出題されるかわからないので勉強しようがありません。「例文、練習問題とも教科書(日本が開発)が一番精選されている」、期別比較、試験は勉強させるため、と教師を粘り強く説いて毎月の定期試験を教科書準拠の同一問題に変えました。

安高の先生方の教えを彼の国の青年に及ぼすことができたと思っています。日本語の先生から教えていただいた漢詩による中国王朝史、大学受験の相談に行っていた他社の世界史教科書(復習に効果大)なども忘れられない『わが師の恩』です。

むかしむかし、 男子だけの高校で

本田 吉隆 (116期)

初めての寄稿ということだが、何を書いたらいいのか不明なので、ちょっと昔話でも書いておこうと思います。

116期と聞けば、そう、男子校としての最後の入学生です。今となっては女子がいることは当たり前なのかもしれませんが、当時は女子生徒を受け入れるというだけでかなり騒がしかったと記憶しています。校則も見直しもそうですが、学校行事の対応、更衣室等の設備面の準備、共学化に反対し、直談判してくるOBの方々のお相手(当時の校長先生が対応されたこともありました)、生徒の目線から見ても騒がしかったと思います。

そんな中、野球部が21世紀枠での甲子園出場が決まり、別方向に盛り上がりは最高潮。何台あるかも不明なバスに次々乗り込み、いざ神戸へ。そして帰ってきたら女子の後輩がいた、という状況でした。この時から制服は廃止となりましたが、新入生からは制服を制定してほしいという要望もあったと記憶しています。制服を買い揃えると娘の成長を実感できる、という親御さんの意見もあり、一部の先生からも同情の声が上がっていました。そんな中、やっぱり色々な弊害も起きます。まずは部活動。部員がいなくて今年で廃部にしようかと思っていたら、数名の女子の入部希望者でてきて存続が決定(ただし部費は数千円)、女子の入部希望が多すぎて、練習場所を確保できない、人数的に男女合同の練習をするしかないが、競技として厳しい等々、女子が入学して新しい空気が



故郷を味わう、故郷に触れあう

そば うどん 酒処

鞍手茶屋

昼はボリュームたっぷりで
ヘルシーな そば・うどん
夜は品揃え豊富な
東北の地酒で一杯

大手町店 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービルB1 ☎03-3213-2385
中山峠店 〒963-1304 福島県郡山市熱海町国道49号線中山峠 ☎024-984-3774 (店主)上野千恵子

はいつてきたからか、女子と仲良くになりたい先輩があれこれ画策したからなのかは定かではありませんが、落ち着くまで所々で気苦労が続いていたようです。

そして新年度早々、対応に苦慮したのが、安高生なら思い出深い応援歌練習です。まず制服が無い状態で服装はどうするか、女子にどこまで厳しくしているのか、応援歌には男尊女卑の概念があるがこれを女子に歌わせるのはいいのか、男子だけに限定すべきではないのか、そもそも続けるべきなのか、という多種多様な意見が出ていました。最終的には継続ということになり、今も続いていると聞いています。一歩間違えば、今でいう炎上のようなことも想定されたので、色々心労がたまった先生方もいらっしやっただとします。

過渡期の学校の様子は、肌感覚を知っている人たちは非常に少ないので、せっかくの機会なので書かせてもらいました。こんな時期にあったんだなあと記憶に留めていただければ幸いです。

9133の風景

安達 尚弘 (91期)

午後の授業のチャイムが鳴った。英語の目下部先生が教室の扉を開け、違和感に気づきながらも一人の生徒を凝視しながら教壇へ立った。クラスの全員もその視線の先へと目を向けた。その生徒は頭にトイレットペーパーをグルグル巻きにし、背筋を伸ばし静かに座っていた。先生は名前を尋ねたが、20秒ほど沈黙が続いた後、先生は一言「まっ、誰でもいいや！」と眩き授

業が始まった。窓際には干し柿がぶら下がっていた。91期3年3組(以下9133)の日常の風景であった。

それから42年後の10月。今年も我が9133のクラス会が開催された。41回目である。一度だけクラスメイトに不幸が続いた年以外続いて開催されている。出席者は毎年25人前後をキープ。稀有なことである。これまでのクラス会への参加者はクラス48名中延34名ほど。約43名の連絡先も整っている。毎年開催しているのだから数年続けて出席していればほぼ30数人に会えることになる。何がクラスメイトを掻き立て、何が魅力なのかよくわからない。決してONE TEAMではない。全員で肩に手をあてて行進なんてありえない。むしろバラバラな方である。結束した思い出もない。最近では他のクラスからも出席の希望が増え始めている。門戸は常に広い。「安積高校卒業生にとっても興味深い事象」ということから今回寄稿を頼まれたので、9133について少し考えてみることにしてみた。

担任は我が松尾BOSS(以下松尾B)。就任でいきなり3年生を担当(ちなみに松尾Bは69期)。受験生への取組みは必須。さらに1,2年時代の9133生徒を知るには学校側のデータから紐解かなければならないハンデ有り。各生徒のパーソナリティまでは記載されては無いだろう。とてもナーバスな受験を控えた生徒たちに対して、「心に寄り添い、気持ちを掴むことから教育は始まる」といった教師としての倫理観を重んじる松尾Bは、我が校の先輩としての立ち位置からコミュニケーションの手段を図るより方法がなかったはずだ。いわゆる安積のノリを利用したのだ。グローヴとヴァイブスで打って出たのだ。我が9133はすん

なりそのノリを受け入れた。そして松尾Bには1,2年時の我らへの先入観(過去の失態等々)もない。先入観からの解放感是个々人の個性の再構築を容易にした。自由度が高まったのだ。放課後教室に残り受験勉強に燃っている十数人の生徒たちから誘われれば駅前前の立食いそば屋に自転車と一緒に喰らいにも行く松尾B。そんな距離感が心地よかった。9133の数人へ寄せられた他の先生方からの苦情もやんわりと受け流す技量もありがたかった。松尾Bのニュートラルな存在とアプローチは最後の一年を愉快的思い出と転化させ、その時の思い出が9133メンバーをあの時へと42年間誘い続けているのだろう。

もう一つの誘いは、このクラスにはスクールカーストが存在しなかったこと。一芸に秀でた者もいたが、誰もひけらかしたりはしない。上から目線もない。所属部活も多彩で出身中学も幅広いせいがかグループ化もしない。適

小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172-3
TEL 0248-72-1555

当に仲が良いが本当に適当で適当なコミュニティ。多様性を重んじた「許容のコミュニティ」が存在していた。それぞれの所在とパーソナリティがそこにきちっと存在していた。「どうぞ!」「どうぞ!」とダチョウ倶楽部をクラス全員でやってたかの様に、何かに付けてまず先に「わりい!」「わりい!」の一言の交し合いが挨拶代わり。キズ付ける者もキズ付けられる者もそこには存在しなかった様に思う。

連帯感の無さも「心地よい」要因でもあった。三年に一度の学祭という高校生活の思い出となるイベントにおいても、出し物は未決定のまま「学祭インフォメーションセンター」という程でカタチのみ治め、主催より客の立場を選択する適当さ加減を好んだ(ある意味クリエイティブ)。9133教室には誰もいない風景だけが学祭の思い出となった。体育祭のクラス対抗応援旗コンテストにおいても、我が9133は旗を作るのではなく松尾Bのキャラクター付の「巨大Tシャツ」を制作。それを見て歓喜の声をあげる方々も多数いたが、規格外のためコンテストからは除外されることに。しかし、誰も考

えていなかったことを成し遂げたことを妙に好む9133は全員「分かるやつだけが、分かればいい」「してやったり」と虚勢に「心地よさ」を感じた。

全校駅伝大会ではすんなり優勝。団結や根性、トレーニングでは無い。ただ長距離に早い人材が揃っていただけ。それよりも優勝は確信していたので、ゴールシーンをどう演出するのかの方に力を注いだ。ゴール寸前でのアンカーの衣装の着替の演出。紙吹雪の用意。帯同してのゴールの段取等「クリエイティブ」な仕上げには力を入れた。「適当」で「ゆるく」、「自由」で「クリエイティブ」。「心地よい」一年間だった。

このような素養が42年間熟成し続けて、9133はもはや一人格と化して、そのパーソナリティをカタチ創ることが9133メンバーの「遊び」のようなモノになってきたように思える。それが41回続いてきた求心力なのだろう。その「遊び」に9133のみんなは毎年参加しに来る楽しみを一度味わうと止められない。最近では年に一度では満足できず、スピンオフイベント「松尾Bの背中を流す会」なんかで一泊で開か

れていたりする。もはや9133中毒は蔓延し続けて止まない。第42回目のクラス会。また、卒業以来の顔に出会えることを楽しみにしている。

(クリエイティブ・ディレクター)

協同組合と私の居場所探し

佐治 実 (96期)

私は、JA(農協)グループで仕事をしています。JA、生協、漁協、森林組合、労働者協同組合等を総称して協同組合セクターと言っています。

協同組合運動の先駆けの存在は、1844年にイギリスで設立されたロジデール公正先駆者組合(消費生活協同組合)です。同組合は、労働者がおかれていた劣悪な状態に対して、「組合員の社会的・知的向上」、「一人一票による民主的な運営」、「取引高に応じた剰余金の分配」などを掲げて、協同組合運動の理念を現実化させました。日本においても、天保年間に大原幽学による先祖株組合や二宮尊徳の五常講



ありがとう22周年

ウイン調剤薬局

(URL <http://www.winpharma.jp>)

ウインファーマは神奈川・福島・群馬・栃木・埼玉・千葉・茨城・東京・愛媛・長崎に50店舗を展開する調剤薬局です

～人と人とのつながりを愛します～

地域のかかりつけ相談薬局を目指します

各地区50店舗 どちらの医療機関の処方せんでも受付ています

福島県内

ウイン調剤薬局(郡山・矢吹・天栄・白河・いわき・保原・南相馬)
★2020年9月 西郷村ウイン調剤薬局オープン予定

(有)ウインファーマ 横浜市港北区日吉本町1-28-7(☎045-620-4681)

代表取締役 藤田勝久(82期)

ウインファーマ(株) 郡山市駅前1-9-1 松風堂ビル(☎024-921-8007)

代表取締役 藤田勝成

がつくられています。

株式会社が不特定多数の人に商品やサービスを提供して株主のための利益を追求する組織であるのに対して、協同組合は、目的を同じくする組合員が出資して運営し、利用するという三位一体的性格を行使することにより特定少数の人（組合員）の利益を追求する仕組みです。また協同組合は、その設立の経緯や理念・役割から、一定の要件を満たせば独占禁止法の適用除外が認められています。

そして協同組合は、グローバルな競争を推進し、最大限の利益獲得を志向する新自由主義や競争一辺倒の過度な資本主義、その延長線上にあるいき過ぎた富の集中や格差に対して、相互扶助によって暮らしと農業・営業を守ろうとする取り組みを支援する役割を担っています。

また近年では、2012年に国連により「国際協同組合同年」が制定され、

2016年にはユネスコによって、協同組合の「共通の利益の実現のために協同組合を組織するという思想と実践」が無形文化遺産に登録されました。さらにこれまでの取り組み実績から、国連は、「SDGs（持続可能な開発目標）」達成のための有力なステークホルダーのひとつとして協同組合を位置づけています。

このように協同組合は国際的には評価されてその認知度も高まっていますが、日本国内においては、「名前は聞いたことがある」程度で、その存在や性格・役割があまり理解されているとは言えません。

いま協同組合各陣営では、“住み続けられる地域”のための“組合員の居場所づくり”を取り組みの重点に掲げています。

JAグループにおいても昨年の28回全国大会で、「豊かでくらしやすい地域社会の実現」のための「地域活性化」

の方策のひとつとして、支店、ファーマーズマーケットや病院、福祉施設等を“組合員との接点のフロント（拠点施設）”として位置づけることを決議しました。

人口減少・高齢化や過疎化のなかでは、社会づくりや地域づくりのためのひとの集まる場所の創設が絶対的に必要だと思います。首都圏在住の96期生の飲み会が、発起人の奮闘によって定期的に開催され、居場所（“安積の集い”の場）をつくってくれていることは決定的に重要です。同時に私は最近、協同組合セクターやJAグループの学習会や懇親会、組織外のサークル活動などに可能な限り顔を出すようになりました。これは50代後半になっていく私の無意識の“居場所探し”なんでしょうね。

（日本文化厚生農業協同組合連合会常務理事）

安積歴史博物館便り

橋本 文典（84期）

御代代わりが盛大な中にも爾々と進み、明けて令和も二年を迎えることができ、東京桑野会の諸兄におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、昨年の台風による被害に際しお見舞いをいただきました皆さまに改めて御礼申し上げます。旧本館は、強い雨風に長時間晒されたものの、外部塗装が部分的に僅かに剥離した程度で何とか持ちこたえました。

さて、旧本館が博物館として公開を始めたのは平成元年の創立百周年記念

事業の一つの事業でした。旧本館の管理と運営が福島県から移譲されたのは、これに遡ること十五年前の昭和四十九年です。「財団法人安積高等学校旧本館保存会」を設立し福島県から受け継ぎました。以来、管理や保存、そして運営までを財団が単独で行うことになり、博物館（旧本館）に関する経費は全て財団が責任を持つことも意味していました。

当時は金利等が高く、元本である基本財産からの受取金額でおよその年間経費は賄っていたそうです。しかしそれから四十年以上が経過した昨今の状況はご承知の通りで、桑野会の皆様は博物館への寄附を毎年お願いしているところです。また、新入生について

も同様に寄附を依頼しておりますが、ここ数年は計画した金額に届かない状況が続いております。

旧本館を校舎として使用した世代とそれ以降の世代にも若干の相違があるようで、この傾向は今後ますます強くなっていくことも懸念されます。さらに令和二年度からは募集定員が減少し、最終的には一学年六学級程度になると思われ、同窓生の減少が必至です。長期的にも寄附金の減少に拍車がかかると思われます。

一方で、建物のメンテナンス経費は定期的に必要になります。平成三十年代は旧本館南側の窓枠部分とバルコニーの一部に塗装と修理を施したところですが、その際には全面塗装や腐食部

ごうや
山田・合谷・鈴木法律事務所

弁護士 鈴木 修一（89期）

〒100-0012

東京都千代田区日比谷公園1番3号
市政会館1階115号室
TEL:03-3501-0451
FAX:03-3501-0452
E-mail:shuitsuzuki@nifty.com
http://www.yamada-law.gr.jp

医療法人美林会グループ

名誉理事長 片山 幸太郎（84期）
理事長 渡辺 佑治（99期）
事務局長 渡辺 美久（89期）
歯科医師 猪狩 知津（安女52期）

医療法人美林会グループ

志木小林歯科：埼玉県志木市本町3-5-26
(Tel.:048-423-5638)
花畑小林歯科：東京都足立区花畑1-15-15
(Tel.:03-3858-5551)
川島デンタルクリニック：
埼玉県比企郡川島町伊草96-1
(Tel.:049-297-9050)
医療法人社団新仁会 小手指デンタルクリニック：
埼玉県所沢市小手指町5-7-18
(Tel.:04-2968-8241)

分の抜本的な改修の必要性を指摘されました。つまり収入が減少傾向のなか、修繕費等の支出額は増加傾向にあるということです。

来館者の増加を図るため、各種メディアへも積極的に広報し、観光資源としての利用も提案しています。テレビ・映画等のロケ地や、コンサート会場、絵画・写真の展示場としての館内利用も広くお願いしています。しかし今後の財政面についての不安を拭うところまでは至っておりません。現行形態を維持するのか、あるいは他の方法を取るべきか、等々財団の将来について考える時期に来ているのかも知れません。

将来にわたり重要文化財である旧本館を存続させ、桑野会会員や安積高校関係者、そして多くの皆さまの利用をサポートしつつ、この建物の価値を高める方策を関係者の英知を結集して考える必要が出てきたように思われます。財団単独の意思ではなく、各関係者の意見が今、必要とされています。多方面からのご協力をお願いいたします。

(公益財団法人 安積歴史博物館 業務執行理事)



朝河貫一顕彰協会便り

国際的な悲喜劇の根本原因
は何か～朝河貫一博士顕彰
協会の2019年活動報告～

矢吹 晋 (70期)

朝河貫一の命日は1948年8月11日に死去したため、2018年が没後70周年に当たった。そこでこれを記念するイベントが母校早大、福島県（二本松市、福島市、郡山市）などで行われ、国際文化会館（東京六本木）では国際シンポジウムが行われた。その記録は『朝河貫一博士没後70年記念シンポジウム講演録』2019年3月として、主として二本松出身の安齋隆氏の尽力により刊行されている。これらのイベントはかなりの盛り上がりを見せて、偉人朝河の横顔が甦ったのは慶賀に耐えない。とはいえ、朝河の真面目はこれらのイベントだけで尽くせるものではなく、昨2019年は朝河の没後71周年を機として、引き続きいくつかのイベントが行われたので、その一端をご紹介します。

2019年8月10日、福島県立図書館

において、図書館主催・朝河貫一顕彰協会後援による朝河命日シンポジウムが行われた。これは甚野尚志教授の尽力で行われた『福島県立図書館蔵朝河貫一資料目録』（改訂版、2019年1月刊）の刊行を記念して行われた朝河資料展示をもとに、甚野教授が特に朝河とグレッチェン・ウォレン女史（ニューヨークメトロポリタン美術館に肖像画あり）との交流の意義を解説し、矢吹が『入来文書』発見の意義を特に島津文書と入来文書との比較を通じて解説した（この命日シンポジウムの概要は翌日の『福島民報』や『福島民友新聞』で紹介された。当日の司会役は顕彰協会事務局長糠沢修一で、古川清顕彰協会会長が冒頭、後援者挨拶を行った）。

その後、早稲田大学内に発足した「朝河貫一学術協会」（幹事役・文学学術院教授）を中心に研究会が継続されているが、2020年1月11日、「朝河史学からたどる国民性と和解」を主題として、早大キャンパスにおいてシンポジウムが開かれた。これは浅野豊美（政治経済学院教授、早大国際和解学研究所所長）の司会のもと、矢吹が「天皇制と朝河貫一～国際比較に耐える日本史像を求めて」、甚野が「比較封建制の研究から国民性の研究へ～朝河貫一の歴史研究の軌跡」と題して講演を行い、その後フロアとの間で質疑応答が行われた。これは早大歴史館が「海を渡ったサムライ～朝河貫一」と題した福島県立図書館協力企画展を1月11日～2月28日行った企画の皮切りイベントとして企画展の紹介を兼ねて初日に行われたものであった。この企画展では、朝河肉筆の恋文も初公開され、注目を集めた。また貫一の父正澄の朝河桜に関わる掛け軸も初公開され、話題となった（この早大シンポジ

村山 俊司 (61期)

労働保険の特別加入
1人親方労災保険加入のご用命は！

労働保険事務組合
神奈川SR経営労務センター

会長 佐藤 重夫 (79期)

(特定社会保険労務士)

事務局 〒231-0005 横浜市中区本町4-36
朝日生命横浜本町ビル8F
TEL: 045-212-5269
FAX: 045-212-3177
<http://www.kanagawa-src.gr.jp>

晴海パートナーズ法律事務所

弁護士 後藤 大 (107期)
マネージングパートナー

〒104-0045
東京都中央区築地2-15-19
ミレニウム築地6階
E-mail: gotodai@harumi-partners.jp
「晴海パートナーズ」で検索ください
TEL: 03-6264-1588 / FAX: 03-6264-1589

ウムの概要は翌日の『福島民報』および『福島民友新聞』で紹介されたので、参照されたい。

最後に早大シンポジウムの意図をご理解いただくために、ポスターの呼びかけをコピーしておく。「朝河貫一は第二次大戦中の晩年、戦争を引き起こす国民性についてこう語っている。諸国民の精神活動には無意識の習性があるにもかかわらず、お互いに自己自身について気づいていない。お互いの言葉と行動が相手にとって手に負えないことが国際的な悲喜劇の根本原因である。――そもそも朝河自身、自らの歴史研究はすべて、それぞれの社会意識の形成過程とその歴史的な現れの特異な方法という単一の問題に向かってきたとしている（書簡集720頁以下）。朝河史学の方法を振り返り、アジアとの和解を再考したい」。

（横浜市立大学名誉教授、朝河貫一博士顕彰協会代表理事）

ホームページの運用状況報告

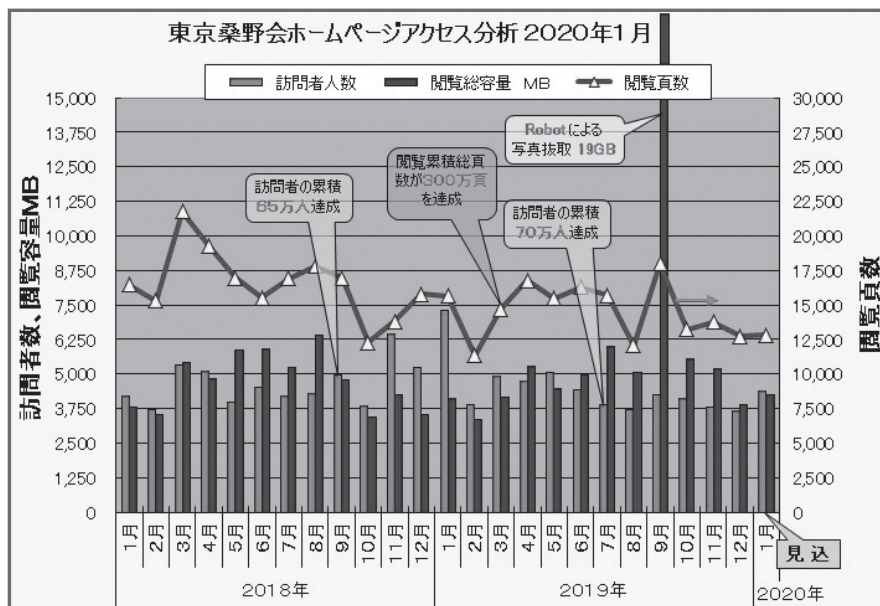
—創設17年目の活動とアクセス状況—

<http://www.tokyo-kuwano.com/>

芳賀 雅美 (86期)

(東京桑野会ホームページ委員長)

昨年度については、サーバー障害は全く発生しなかったものの気になる問題があったので報告しておく。昨年9月に何者かが写真の抜き取りを行った形跡があった。通常月（直近3年間の平均値）と比較して5倍以上、容量にして19GBという異常なダウンロードがなされていた。目的が分からないが



東京桑野会ホームページへのアクセス状況

悪意がないことを祈るばかりである。画像数にして23万枚余りはある。同じ写真を数千枚ずつダウンロードしているが、総会・懇親会の写真に集中していることも気になる点である。その他にもクリックボタンや文字・ロゴデザインも6万7千枚ほどがダウンロードされていた。さらに詳細に分析してみると、異常アクセスの期間は9月5日から13日にかけてで特に6日と7日が特出しているが、リクエスト先ドメインが日本国内（しかもOSはマッキントッシュ）なので、悪意があつてのアクセス集中ではないと考えられる。人間わざとは思えないので、スパイダーロボットと言われる自動プログラムで操作されているものと推定できるが、これ以上の詳細は私の力では分析ができていない。その後は異常アクセスの問題もなく、平穏無事にホームページを運用することができた。なぞ

は残るが、平素ご利用いただいている会員の皆様には、深く陳謝したい。

これとは別件であるが、昨年3月8日に東京桑野会ドメインのメールアドレスがサイバー攻撃で乗っ取られ脅迫メールが事務局に送りつけられる事件が発生した。脅迫はフェイク（偽物）と思って無視していたところ、4日後の3月12日に当会のサーバーを使用して大量の迷惑メールを世界中に発信し始め、ホスティングサービス会社のシーサイドネット社からメール発信遮断の連絡が入った。全ての東京桑野会ドメインのメールアドレスについて、直ちにパスワードの変更を実施し、シーサイドネット社と共に安全確認を実施し復旧再開となったが、当会のホームページもサイバー攻撃に遭うほど有名になったのかと感心した次第である。この事例も今年度が初めてであり、17年間もホームページを運営

21世紀をリードする
安積SPIRIT!

浅川 章 (76期)

東京桑野会副会長
〒338-0821さいたま市桜区山久保2-18-3
電子メール: chobi@hyper.ocn.ne.jp

小濱 精吾 (58期)

(MOTOMIYA出身)

医療&社会保障再生目指して
楽しく笑える講演を提供中
お気軽にご依頼ください。

本田 宏 (86期)

元埼玉県済生会栗橋病院 院長補佐
NPO法人医療制度研究会 副理事長
弘前大学講師・立教大学兼任講師
日本医学会連合労働環境検討委員会委員
hondahiroshi@me.com 090-3205-9482

しているといろいろな事件があるものだと改めて思った。本件については、その後11月28日に同様な脅迫メールが入り2日後に乗っ取りのハッキング行為が確認されたが、事前に予防措置を施していたため実際のアカウントの乗っ取りはされなかった。今後も警戒する必要がある。

17年目についての改訂や追加コンテンツについては以下の通り。

- (1) 会員投稿のブログ形式記事や安積OBクイズの追加改訂については、更新できる記事の入手ができなかったため実施されなかった。会員の皆様からの投稿や情報提供を切に望んでいる。
- (2) 例年通りではあるが、会長の新年度ご挨拶、役員・幹事名簿の更新、総会・懇親会の結果報告、夏の甲子園野球福島県大会組み合わせの紹介についても、引き続き改訂して掲載した。

ホームページ掲載記事の入手については、今後も一層の努力をしていきたい。

次いで当会ホームページへのアクセス状況について詳述する。

- (1) 過去2年間分についてグラフで示しておく（別掲の図を参照：今年1月は見込みの数値）。
- (2) グランドオープン以来、昨年7月に訪問者総数が70万人に達し、今年3月には閲覧総頁数が320万ページビューに達する見込みである。
- (3) この1年間の平均で、月間訪問者4261人、閲覧総頁数14690頁で推移しているが、訪問者数で前年比△13.4%の大幅減、閲覧総頁数でも前年比△9.1%の減となった。

訪問者数、閲覧総頁数ともに近年ワースト1もしくはそれに匹敵する数

値である。なんとか月間平均で閲覧総頁数2万ページビューを越えたいと個人的には考えている。一般的に言って中身へのアクセス数が低調で伸び悩んでいる。引き続き会員の皆様のご協力を賜りたく切に望んでいる。またコンテンツや情報の提供につきましても、随時事務局へご連絡頂きたく、再々であるがご協力についてこの場を借りて改めてお願いをしたい。情報がなければ内容の更新ができず、閲覧を求めるにはホームページの鮮度管理が大切であることは言うまでもない。

東京桑野会活性化プロジェクトチームの発足

平田 勝也 (76期)

東京桑野会では令和元年7月17日(水)の総会反省会で、上石利男幹事長から会が抱える諸問題が提起され、参加者から様々な意見が交わされ、『活性化プロジェクトチーム』結成で衆議一決。同年10月1日(火)18時から2時間半神田エッサム1号館7階貸会議室で、第一回の討議を行った。有志参加者は14名である。

進行役の上石幹事長提案で、以下4議題の討議を行なった。

(1) 会費

- 会費納入者数は、年々漸減傾向にあり、入会者と退会者とのバランス悪く入会者を増やす算段が必要。特に若い世代の勧誘の検討要。
- 総会には毎年120名前後の出席者があり、他校ではもっと多い例もあり、本会ではかつてさらに多くの参加者を集めた実績があるが、漸減の原因はどのようにしてなのか、検討の余地あり。

- 会費納入手続きは、現行郵便局振込みの他、ネットバンキングやコンビニ振り込み等、振込方法の検討も提案。
- 振込用紙が送付会報と同封に気づかぬ例あり、封筒表に、「重要“振込用紙在中”」などと、注意喚起も一法。

(2) 総会・懇親会のあり方

- 若い世代の総会優遇会費は、令和元年の場合、学生@3,000-、121期まで会費込みで@6,000-であるが、更に若い会員増の工夫が必要ではないかとの意見があり、例えば中央部にスイーツなどを載せたテーブル設置で若い男女を誘導するコーナー設置も一法。
- 宴会の食べ物不足の声あり。事務局では@8,300-×100名で注文。次回110名分に増加注文の試みも検討。
- アクセスし易い会場場所を望む若い世代の意見もあり、検討の余地がある。
- 都内会場は1年以上前の予約必要。年替りの会場設営はかなりの大仕事。会員で折衝担当者選定は相当困難。
- 特に若い世代は経験が浅く諸会場の特性や確保の困難さ理解不足か？若い世代に発案し、実際のスケジュール・予算・運営等の実務のシュミレーションも一法。
- 当校の総会・懇親会会場はそれなりの品格や格式が必要で、廉価のみが条件ではない。現在の椿山荘ホテルは、竹花先生兄弟の大きなご尽力により実現。都内で総会・講演会と宴会場の2会場を占有し、現予算の範囲内で他の有名ホテルで格安に提供されることはまず有り得ないことを肝に銘ずる必要あり。

奮い立て我健男児

大矢 真弘 (88期)

株式会社 富士ハイエンジニアーズ
一級建築士事務所

代表取締役 (管理建築士) 遠藤 修 (67期)

(一級建築士)
(一級建築施工管理技士)
(一級土木施工管理技士)

〒215-0015川崎市麻生区虹ヶ丘一丁目18番6号
☎: 044-988-7387 携帯:090-3212-2892
FAX: 044-988-7547
E-mail: o-endou@river.ocn.ne.jp

がんばれ安積 がんばれ日本

渡邊 龍一郎 (81期)

Watanabe Ryuichiro

〒170-0004東京都豊島区北大塚2-31-5-513
Phone : 090-1429-6127
E-mail : watanabe2021@ryu.bz



(3) 会報

- 会報発行のコストは、会誌本体の@73-/冊プラス諸経費が@189-/冊となり、諸経費が会誌本体よりもはるかに多い。執筆料は無償。校正・編集人件費も無し。編集員の熱心な無料奉仕に支えられている。
- 会費は令和元年度395名が支払い、会員に2,635部送付の他、母校には1,500部を送付しているが、生徒配布の確実性はない。収支計算書の年会費収入の80%程度で出版経費を賅っている。
- 会員から如何に多くの会費を集めるかが喫緊の課題。無制限に会報配布を改めるのも一法。但し、できるだけ多くの卒業生に同窓生の情報を伝達し求心力を高め、母校への応援を期待したいとの趣旨からも慎重な検討が必要。
- 講演会継続の有無は、優れた識見で格調の高い講演もあり、基本的に

は継続が望ましいとの意見が大半。ただし講演時間と内容については検討の余地あり、専門的過ぎて難しいものはできるだけ避け、親しみやすく優しい、時流に沿って興味深い題目・内容の吟味必要。

- 総会・講演会場と懇親会場を同一会場にする経費節約意見もある。会場設定の都合もあり一応検討の余地あり。

- ここ10年ほどの会報編集作業は、渡部良朋編集長以下少人数で実施。例年母校入学式に間に合わせて出版。執筆依頼の原稿回収率80%程度で、紙面の2割増し依頼。

(4) その他

- 100期以降の若手の会は、年間で2～3回、各回12～13名程度の会合を持ち、意見交換や懇親を図る。
 - 母校生徒への会誌配布は、校内幹事や校長に依頼。確実な配布は当会員が学校に向いて直接手渡すのが一番。
 - 現在母校には在校生320名程おり、校内幹事に知り合いのおられる高松ゆたかさんから確認の連絡を入れて頂きたい。
 - 東京桑野会ホームページ管理人からは、ホームページに会報のバックナンバーが全て揃い、常時アクセス可。今一読者からの反応が薄く、大変な苦勞の割には会員の有用活用あるのか、心許無く張合いがないとの悩みあり。
 - 討論後の懇親会の席で、関根健治さんに東京学生寮の生い立ちについてNo.40号の記事を更に深めた追加エピソードや感想、山本道明さんに趣味の「人間ウォッチング」の興味深いエピソードをまとめて投稿依頼。
- 上記のような活発な討議が行われ、

更に元気のある有志は二次会場に場を移して、アルコールの勢いもあって雑談を交えて、更に安積健児の熱い議論の続きを『炎々』と続けた。

人生三毛作の時代

佐藤 重夫 (79期)

ここ数年は、「働き方改革」で、講演・相談活動を行っております。昨年5月の研修会講師で深い意図はありませんでしたが、「人生三毛作」の時代が来たことを話しました。同席していた旧知の先生より、いいこと言うねとお褒めの言葉を頂きました。そのことがあって、このことについて深く掘り下げてみようと思った次第です。

私は、団塊の時代真っ只中、昭和22年8月に生まれました。小、中、高校、今では考えられない1クラス55名程度のすし詰め状態で過ごし、大学に入ってから70年安保の真っ只中。幸い2年で卒業単位を取り、就職も早々に決まり、今でこそ普通になりましたが、ダブルスクールで労働法・労務管理の研修会に参加しました。幸い、大学は経済学部でしたが、当時1年で憲法、2年で民法、3年で会社法が必修でしたので、少しは素養があったかと。研修会修了後も勉強会があり、丁度社会保険労務士の試験が始まり、第1回目の試験で合格することができました。

最初の会社においては、人事関係のシステム作りや現場における安全衛生管理、労災処理等、社労士としての業務は、全体から見ればほんの一部でした。51才で早期退職し、2社中小の建設業に勤務しました。その間、社労士に関して再度勉強し直すとともに

古川 清 (63期)

あらゆる**木質の床**を心を込めて施工します。
OK工法(床工事・内装工事)・調湿床・板敷・フローリングボード
フロアリングブロック・塗床・ネダホーム・OAFフロアーその他工事

木質床(フローリング)施工

孝和建商株式会社

千葉市中央区汐見丘町16番12号

取締役総務部長 **小林伸久(84期)**

電話:043-245-4111 FAX:043-244-9550

携帯:080-2045-0962

E-mail:nobuhisakoba@docomo.ne.jp

信愛病院

医学博士 **渡辺 哲弥 (70期)**

(練馬区東大泉7-14-15)

実務を経験しました。平成19年に特定社会保険労務士の付記を取得し開業し今日に至っております。

昨今、「人生100年時代」を意識して、「70才を超えて働く」という希望者が増えており、政府も70才まで働けるよう企業に対応を求める施策を打ち出そうとしております。一方、企業側は、トヨタ自動車社長が「終身雇用を守っていくのは難しい局面に入ってきた」と発言し、経団連も「次の春闘では、新卒一括採用、終身雇用、年功序列がセットになっている日本型雇用（メンバーシップ型）の見直し」といった、AI、グローバル社会を見据えた方向に急速に方向転換しようとしています。

現に、大手銀行を始めとして、好業績の企業でも、早い企業では40才以上に早期退職を求めることが、より加速的に進み、人材市場のあり方が変わろうとしております。私達の頃は、親は公務員や一流企業に就職したら安泰と喜んでくれたものです。企業も資格制度や関連企業に出向という形で、終身雇用を取り繕ってきました。それも限界、管理職のキャリアパスから外れた中高年の「働かないおじさん」は、ルートから外れることになりま

す。これから社会に出られる方、又そのような状況になられる可能性のある方は、自分に合った「働きがい」を見出し、労働価値を最大に高めてください。多くの人が一生一つの組織で働く時代でなくなりました。また、組織に縛られることなく、個人事業主、一人親方、タニタを始め企業内個人事業主、ギグワーカー、テレワーク、兼業・副業等、色々な働き方の増加が見込まれていくと思います。これらに関しても、自分一人で出来る仕事はありません。人との交わりを有効にするととも

にスキルアップ、キャリアアップを図りましょう。

これからは、人生一毛作で終わる方もいると思いますが、多くは、二毛作、三毛作それ以上の人生の変化の中で生きていくことになるでしょう。この一年働き方改革の講演、相談に乗って痛切に感じ、ここに記し参考になればと思う次第です。

窮々自適で考える

山本 道明 (80期)

この三月末で会社勤めを終えて七年になる。当時、人から「悠々自適ですね」と言われると「イエイエ、とんでもない。窮々自適です」と答えていた。年金生活では悠々とはいかないのが現実である。しかし、窮々でも汲々だろうと自適に変わりはない。

朝寝、朝酒、朝湯も意のままに、好きな本を読み、時折美術館やコンサート、芝居見物にも出かける。ジムの動かない自転車や歩行機ではなく、自然の中に身をおき、移り変わる季節を肌で感じる。他人からも自分からも、何からも制約されない、四十年待ち焦がれた自由気儘な生活を楽しむ。何年経っても飽きることはない。

人から「ボランティアはしないんですか」と言われると、傲岸不遜にも「会社勤めそのものがボランティアみたいなものでしたから」と嘯く。仕事が好きでなかったこともあるが保守的で横並び意識が強く、保身、事勿れ主義の企業社会には生涯馴染めなかった。

でも仕事は一生懸命した。それなりに国民の勤労と納税の義務も果たしたという自負から、何と言われようと意に介さない。それより、意識の奥深く

で、精神も思考もまだまだ解き放たれていないという思いがする。

数年前、家人が半世紀余り文通を続けているノルウェーのペンフレンドに会いたいと思っていることを知り、観光を兼ね二週間の北欧旅行を計画した。ノルウェーで平均的な生活を送る彼女の自宅はオスロから鉄道で一時間程の地にあり、五百坪以上はあろうかと思われる敷地は色とりどりの花と緑に囲まれていた。彼女の姉弟、娘夫婦に孫も集まり、共に食事をし、語り合って過ごした四泊五日間は、実に楽しく充実した時間であった。

私ひとり拙い英語であったが、彼らは熱心に耳を傾けてくれ、互いの歴史文化、教育、働き方、日々の生活等々について飽く事無く話しあった。そして知ったのは、厳しくとも美しい自然環境の中、決して贅沢ではないが安心して自由で豊かな日常を送る彼らの生活である。

国情の違いはあれ、老後問題、男女格差、働き甲斐、休暇の過ごし方、教育等々、彼我の差は余りにも大きい。日本は物質文明の一部においては確かに先進国ではあるが、人間にとって最も大事な精神文明においては、真にもって後進国だと思い知らされた。

自分では自由気儘に生活している筈なのに何故満たされないのか。彼の国をみて、その理由が少し理解できた様な気がした。それは、社会自体が平和で平等かつ自由で安心して生きられるものでなければ、個人の自由も未熟のまま成長しないからだ。

私は自由に生きる事こそ人生の目的そのものだと考えている。もう少し若ければノルウェーに移住したいと思ったであろう。せめて彼の地を再び訪ねたいと思うこの頃である。

株式会社開成プランニング 代表取締役
(<http://www.kaisei-planning.co.jp>)

和田 正哉 (77期)

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-2
勤務先電話：03-3230-8001
FAX：03-3230-8550
携帯：090-3236-3883
e-mail: wada@kaisei-planning.co.jp
携帯mail: wada-masanori@docomo.ne.jp
自宅電話: 047-332-2287

土日会創立会員

高松 ゆたか(74期)

第45回土日会展
2020年12月9日初日
国立新美術館 油画作品 **チャグ馬の詩**
(194×584cm)

株式会社櫻井計画工房
取締役 一級建築士

櫻井 淳 (78期)

郵便番号：231-0014
住所：横浜市中区常盤町2-10
常盤不動産ビル2F106
TEL: 045-663-9271
FAX: 045-663-9273

平成 30 年度決算報告書

I 収支計算書 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

		決 算 額	予 算 額
収入の部	(1) 前年度繰越金	340,812	340,812
	(2) 年会費収入	872,000	950,000
	(3) 総会費収入	912,000	950,000
	(4) 協賛広告料	300,000	310,000
	(5) 受取利息	4	4
	(6) 雑 収 入	59,000	30,000
	収入合計	2,483,816	2,580,816
支出の部	(1) 総会懇親会費	1,000,171	1,000,000
	(2) 通 信 費	45,551	50,000
	(3) 会 議 費	0	0
	(4) 会報作成費	354,780	354,780
	(5) 会報発送費	275,119	275,119
	(6) 事務消耗品費	115,940	130,000
	(7) 母校後援費	0	20,000
	(8) 冠婚葬祭費	0	20,000
	(9) 支払手数料	33,988	50,000
	(10) 人 件 費	380,000	380,000
	(11) 交 通 費	1,290	50,000
	(12) 名簿編集費	0	0
	(13) ホームページ・広報部会運営費	24,960	40,000
	(14) 雑 費	0	10,000
	(15) 予 備 費	0	50,000
支出合計	2,231,799	2,429,899	
次期繰越金	252,017		

令和元年度予算案

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

		予 算 額
1 収入の部	(1) 前年度繰越金	252,017
	(2) 年会費収入	880,000
	(3) 総会費収入	920,000
	(4) 協賛広告料	360,000
	(5) 受取利息	4
	(6) 雑 収 入	30,000
	収入合計	2,442,021
2 支出の部	(1) 総会懇親会費	1,000,000
	(2) 通 信 費	47,000
	(3) 会 議 費	0
	(4) 会報作成費	346,896
	(5) 会報発送費	267,708
	(6) 事務消耗品費	150,000
	(7) 母校後援費	20,000
	(8) 冠婚葬祭費	20,000
	(9) 支払手数料	50,000
	(10) 人 件 費	380,000
	(11) 交 通 費	30,000
	(12) 名簿編集費	0
	(13) ホームページ・広報部会運営費	30,000
	(14) 雑 費	10,000
	(15) 予 備 費	50,000
支出合計	2,401,604	
次期繰越金	40,417	

II 財産目録 (平成31年3月31日現在)

A 特別会計

事業準備積立金 定期預金 (三井住友銀行) 1,067,832

B 現預金

(1) 普通預金 (三井住友銀行) 214,852
 (2) 郵便振替貯金 30,984
 (3) 現金 6,181

上記は監査の結果いずれも適正なものと認める。

平成31年4月5日

会計監査 関 根 健 治

会計監査 宗 像 良 保



弁護士 齊藤 英彦 (69期)

石井総合事務所

司法書士・行政書士

石井 俊一 (82期)

〒104-0061 東京都中央区銀座8-8-15
 青柳ビル7階

TEL :03-3289-1411
 FAX :03-3289-1422
 E-mail : s-ishii@e-1411.com
 http://www.e-1411.com

【会費納入のお願い】

東京桑野会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。会報の作成・送付も会費によって賄われています。現在、会報を送付している会員からの会費納入の達成率が低迷し、東京桑野会の財務が逼迫しつつあります。東京桑野会の健全な財務状態を維持するためにも会費納入をお願いいたします。(東京桑野会は安積桑野会とは別会計となっておりますことご承知ください)

編集後記

今号も、美術科教員の榎村俊智先生(98期)に、表紙絵と挿絵を提供していただきました。先生の作品を通してみる母校の姿は、卒業生の心に残るセピア色の姿を鮮やかな姿で思い起させる力を持っています(モノクロの線描絵であっても、です)。いつもありがとうございます。

(74期 係 高松ゆたか)

小島稔校長先生の「震災・原発事故再考」を読ませていただいた。とても心に沁みました。双葉高校の現状を初めて知り、他人ごとではないと思うと同時に、このような現実を経験され先生に薫陶を受けている安積の生徒たちは幸せ者だと思いました。この会報が発行する頃、コロナ騒ぎで、高校生国際交流事業に参加できたか心配ですが、優秀な後輩たちの活躍を祈っています。

(78期 櫻井淳)

年号が令和になって丸1年経過しようとしています。今上天皇陛下は、我々91期と同学年。小生は、陛下が「浩宮さま」だった頃から等身大のお姿に親近感を抱いていました。年を経て今や陛下も我々も還暦を迎えました。これからまだまだ現役生活を余儀なくされる陛下に心からエールを送りたい気持ちです。91期の皆さん！我々は浩宮世代です。老け込むのはまだまだ早いぞい！がんばっぺふくしま！

(@91にわか広報部員)

昨年6月に金融庁が発表した高齢化社会における資産形成報告で「老後2000万円問題」が話題となった。夫65歳と妻60歳のモデルケースで、公的年金収入が月額21万円に対し支出は26万円となり、月に5万円不足するというものだった。年間60万円なら夫が100歳まで生きれば、35年を掛けて不足額約2000万円という計算になる。そんなことわざわざ言われなくて、公的年金だけで老後は優雅な暮らしができるなんて誰も思っていな

いのにも係わらず、世論は過剰に反応し非難轟々となった。65歳までに2000万円なんて貯金できないと思っている方、考え方を変えませんか？

高齢者になれば子供の養育費もなくなり住宅ローンも解消する。さらに物欲は減り、40歳代・50歳代と同一の生活レベルを維持する方が難しい。支出を管理すればよだけで、実質的な生活レベルを大きく落とさずとも自然に幸せな生活は可能である。この楽観論で満足し、幸福な老後を生きようではありませんか。(がっちゃん)

令和最初の会報です。今上陛下は、同学年です。天皇陛下とともに91期は頑張ります。ん？、昨号の編集後記と似ている・・・。じゃ、もうちょっと書くか。今号の特集は、「安積の集まり」としました。様々な安積の集まりがある。東京桑野会もそのひとつ。安積に学んだという経験で、安積の集まりに集まることができる。その喜びを込めて、特集といたしました。

(GF91)



『東京桑野会会報』No.42

2020年4月1日発行

発行・編集人●古川 清

発行所●東京桑野会

〒101-0044

東京都千代田区鍛冶町2-9-5

東園ビル7階

新神田法律事務所内

Tel 03-3252-9671 Fax 03-3252-9673

E-mail asaka@tokyo-kuwano.com

URL <http://www.tokyo-kuwano.com/>

製 作●株式会社キタジマ

〒130-0023 東京都墨田区立川2-11-7

Tel 03-3635-4510 Fax 03-3635-4515
